

## CONTENTS

### 巻頭エッセイ「市民活動をサポート!」 P1

県民の暮らしへの更なる役立ちに向けて  
生活協同組合コープしが  
理事長 西山 実さん

### おうみ未来塾リレーエッセイ P2

今こそ、「多文化共生の地域づくり」を!  
おうみ未来塾 7期生 甲賀市国際交流協会、日野町西大路女性会  
大河原 佳子さん

### 特集●未来に向かってつなげる、つづける。 P2~5

SDGsを自分事として捉えること

【寄稿】

認定特定非営利活動法人日本NPOセンター特別研究員  
一般社団法人SDGs市民社会ネットワーク事務局長代行  
新田 英理子さん

【事例紹介】

- 「みんなて、大津」実行委員会
- 滋賀県立大学 とよさと快蔵プロジェクト

### 市民と企業のChangeにチャレンジ! P6~7

- Mam's fun
- NPO法人 家棟川流域観光船
- ヴォーリス今津郵便局の会
- 有限会社 豆籬

### Changeにチャレンジ!応援BOX P8

滋賀でサステナブル社会をめざす市民情報交流誌  
Collaboration Paper for Voluntary Network in Ohmi



# おうみ ネット

淡海  
2018  
107

Winter

発行日/2018年12月1日  
発行所/公益財団法人 淡海文化振興財団

## 巻頭エッセイ●市民活動をサポート!

### 県民の暮らしへの 更なる役立ちに向けて

コープしがの2018年度基本方針は、「協同して創ろう、笑顔あふれる暮らし」～聴く、話し合うこと、つなぎあい、みんなの力を合わせよう～です。組合員の事業・活動への参加を通じて「暮らしの願い」を協同の力でかなえていくことをすすめています。おかげ様で設立25周年を迎え9月現在、約19万人の県民の方へ加入頂いています。(県帯加入率33%)

一人ひとりの暮らしは、家族、食、住まい、健康、地域など様々なことに関わりの中にあります。皆さん「暮らしを良くしたい」、「安心して暮らしたい」想いと願いがあり、一人では解決できないことを人と人のつながりや多様な組織・個人と協同することにより解決していけるよう、コープしがは人や組織をつなぐことができる存在でありたいと思っています。また、行政や諸団体と一緒にできるコトを見つけ、協同の価値を広めていくと共に、一人ひとりが「私に何ができるのか」を考え、「私のできるコトづくり」に一步を踏み出せるよう、積極的に支援・サポートをしていきます。

生活協同組合コープしが  
理事長 西山 実さん



ありがとうの感謝をこめて  
25  
th  
コープしが25周年



Ohmi Network Center

淡海ネットワークセンター

公益財団法人 淡海文化振興財団



特集

未来に向かって  
なげる、  
つづける。

## おうみ未来塾 リレーエッセイ

### 今こそ、「多文化共生の 地域づくり」を!

未来塾での学び、7期生のグループ「ひょうたんからKO-MA」での活動は、ライフワークである「多文化共生の地域づくり」の原点になっているかもしれません。

年齢、職業、地域、考え方が違うメンバーが互いの意見や想いを尊重しながら、2006年11月、西の湖の飛び地「権座(ごんざ)」で「権座水郷コンサート」を開催しました。

現在は、地域の人たちを中心に収穫祭等も行われ、「権座」で収穫されたお米でつくられた純米吟醸酒『権座』も人気があるとのこと。「日本酒ブーム」といわれていますが、この『権座』の名前が世界に轟く日も近いかもしれません。まさに、地域の「たから」を地域の人たちが再発見し、地域の人たちで守り・育み、全国に、世界に広がっていく、グローバルな取り組みになるでしょう。

それぞれの地域の中で、祭りやイベント、奉仕作業等を通じ、日本人も外国人も、声をかけあい、顔のみえる関係を築いておくこと、お互いの文化を尊重しながら、「ともに」まちをつくっていかうという視点をもつ人が地域にすることで、自ずと多文化・多様性を認め合う社会がつけられるのではと考えています。

初代塾長の「Think locally, Act locally, It becomes globally.」という言葉は、「多文化共生の地域づくり」の基本をおっしゃっていたのだと再認識しているところです。

おうみ未来塾 7期生  
甲賀市国際交流協会  
日野町西大路女性会

大河原 佳子 (おおかわらけいこ)



# SDGsを自分事

## として捉えること

持続可能な開発目標「SDGs」が国連サミットで採択されて3年がたち、最近では様々なシーンで、17の目標が描かれたロゴマークを目にするようになりました。難しそうと他人事にするのではなく、SDGsを知り自分事として捉え、日々の活動の中に取り入れることで、「強み」や「見える化」につながるのではないかと、SDGs市民社会ネットワークの新田英理子さんにご寄稿いただきました。

また、SDGsの項目を日々の活動に関連付けて活動をされている「みんなで、大津」実行委員会、SDGs宣言をした滋賀県立大学の学生で古民家改修などをメインに活動する「とよさと快蔵プロジェクト」にお話を伺いました。

新田 英理子さんプロフィール

富山県高岡市生まれ。大学卒業後、民間企業の社員教育部門に3年半勤務。退職後、環境NPOなどでの嘱託スタッフやボランティアを経験後、1998年4月より日本NPOセンターの専従有給スタッフとして活動。NPO向けの講座の企画や運営、全国大会の企画運営、企業の社会貢献プログラムの相談や企業との協働事業の企画運営など、NPO支援全般にかかわる。2014年8月から事務局長（2017年3月末で退任）。2017年4月より、SDGs事業プロデューサーとして、一般社団法人SDGs市民社会ネットワークに地域連携事業担当アドバイザーとして週3日程度出向しつつ、活動を継続。2018年4月よりSDGs市民社会ネットワーク事務局長代行。日本NPOセンターでは、特別研究員としてNPO法20周年記念プロジェクトやSDGsの地域での取り組み支援を行う。NPOの視点からNPOとNPO、企業とNPO、行政とNPOなど、多様な人々の参画によってつづく社会を創り出す喜びを大切にしている。



寄稿

認定特定非営利活動法人日本NPOセンター特別研究員  
一般社団法人SDGs市民社会ネットワーク事務局長代行  
新田 英理子さん

世界中で限界が  
近づいてきている  
実感が高まっている

国連で2015年9月25日に採択された文章では、「我々の世界を変革する―持続可能な開発のための2030アジェンダ」というのが正式名称で、通称「SDGs（エス・ディー・ジーズ）」と呼ばれています。「特定非営利活動促進法」のことを通称「NPO法」と言っているのと同じです。この採択された文章には、NPO法と同じように、理念が記載されています。NPO法では、「第一条にボランティア活動をはじめとする市民が行う自由な社会貢献活動としての特定非営利活動の健全な発展を促進」と記載されているように、SDGsも前文に理念を掲げています。少し長いので、大切なポイントを4つに絞ってみます。①人間、地球及び繁栄のための向こう15年の行動計画であるということ②あらゆる形態と側面の貧困をなくすことが最大の地球規模の課題であると明言していること③世界を持続的かつレジリエント（強くしなやか）な道筋に移行す

# SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

世界を変えるための17の目標

<p>1 貧困をなくそう</p>	<p>2 飢餓をゼロに</p>	<p>3 すべての人に健康と福祉を</p>	<p>4 質の高い教育をみんなに</p>	<p>5 ジェンダー平等を実現しよう</p>	<p>6 安全な水とトイレを世界中に</p>
<p>7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに</p>	<p>8 働きがいも経済成長も</p>	<p>9 産業と技術革新の基盤をつくろう</p>	<p>10 人や国の不平等をなくそう</p>	<p>11 住み続けられるまちづくりを</p>	<p>12 つくる責任つかう責任</p>
<p>13 気候変動に具体的な対策を</p>	<p>14 海の豊かさを守ろう</p>	<p>15 陸の豊かさを守ろう</p>	<p>16 平和と公正をすべての人に</p>	<p>17 パートナリシップで目標を達成しよう</p>	<p>SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS</p> <p>2030年に向けて 世界が合意した 「持続可能な開発目標」です</p>



▲国連事務総長アントニオ・グテーレスさんが日本に来日の際、日本のNPOと意見交換をしたときの記念写真

## 2030年の自分、活動、家族、世界を具体的に想像するということ 発想をもてるかどうか

SDGsは、15年後に達成してい

るために、大胆かつ変革的な手段をとること④だからこそ、「誰一人取り残さず」に「パートナーシップを活かして行動計画を達成しよう」と言っていること。その背景には、残念ながら、「このままでは、地球も人間も限界が近づいている」ということを受け止めなければなりません。



▲2016年11月24日SDGs市民社会ネットワーク発足記念イベント

るべき課題を17に分類し、さらに、その17目標を達成するために、169の具体的な目標に落とし込んであります。これは、193カ国で合意するために国家だけでなく、少数民族のグループや産業界のグループ、女性のグループ、そしてNPO・NGOのグループなど9つのグループで議論を積み重ねてきた集大成としての文章です。ですから、すべてのターゲットを一つ一つ達成していくというのは国家が担う責任です。私たちは大意を理解し、2030年を具体的に発想して、私たちが行っている日々の暮らしや活動が、このままで良い

### まとめ

世界共通の目標であるSDGsですが、地球規模の課題も全て、地域課題につながっています。169の目標に目を通してみると、自分自身や周りの人や環境が思い浮かぶのではないのでしょうか。

淡海ネットワークセンターは、地域や社会の課題解決に自主的に取り組むNPOや市民活動をサポートしています。一人では解決できない悩みの相談をお聞きしたり、人と人をつなぐお手伝いをしたり、「想い」のつまった寄付を届ける活動をしています。NPOや市民活動団体の皆さんの想いや目標が一つでも多く達成されるよう、みなさまとのパートナーシップを心がけています。

2030年にSDGsで掲げられた目標が達成されるよう、私たち一人ひとりができる身近なことから、活動を始めてみませんか？

17 パートナーシップで目標を達成しよう



地球の課題は喫緊です。「琵琶湖の湖面上昇によって、みなさんのご家族の2人のうち1人は、県外に10年以内に移住しなければなりません」と発表されたらどうしますか？（北極圏氷河の融解によって南太平洋では実際に起る可能性が極めて高いです）高度経済成長長期、私たちは琵琶湖の汚染を食い止め、共生の道を選び

【参照】  
<https://www.mofa.go.jp/mofaj/files/000252818.pdf>

のか点検するところからはじめると、取りかかりやすいです。実際に、日本政府の実施指針も現在の施策がどうSDGsの169のターゲットと結びついているか、紐づけられています。

ました（埋め立てたりしませんでした）。ぜひ、SDGsの国連採択文章全体を一度読んでみてください。



▲愛媛県内子町でのSDGs勉強会にて、最前列一番左が筆者

# 事例紹介

## SDGsを意識することから生まれるものがある

「みんなで、大津」実行委員会  
(NPO法人 おおつ環境フォーラム)

「みんなで、大津」は、主に大津で活動する市民団体を市民のみんなで応援しようとして開設されました。大津版クラウドファンディング(寄付)や人集めなど、小さな規模の活動も支援しています。

開設時に企画された取組が、おおつ環境フォーラム・エネルギープロジェクト「みんなの力で、おおつ市民共同節電所」をつくろうです。クラウドファンディングで集まった資金でLED蛍光灯を購入して、将来を担う子どもたちが集う大津子育て総合支援センター「ゆめっこ」に寄贈するというものでした。

節電によりCO<sub>2</sub>の排出を削減し、地球温暖化を防ぐというプロジェクトのミッションは、SDGsが掲げる目標の「7・11・13」に当てはまるということで、クラウドファンディング募集時からSDGsの

ロゴマークを使用されてきました。「目標12」の「つかう責任」(エネルギーの消費)も関係してくる、気候変動の大きな要因は地球温暖化であり、LEDに替えるだけで60%節電することになり、温暖化への影響を小さくできるんです」と、「みんなで、大津」の森口行雄実行委員長は話してくださいました。

何気なく行っている多くの活動がSDGsにつながっていて、そこから交流が生まれ、目標17の「パートナーシップ」で目標を達成しようにつながっていくのだと気付かされました。



▲大津子育て総合支援センター ゆめっこ



SDGsのロゴを活用したクラウドファンディングの募集チラシ

**DATA** 「みんなで、大津」実行委員会  
(NPO法人 おおつ環境フォーラム)

設立: 2018年2月1日  
連絡先: 滋賀県大津市浜大津四丁目1-1  
明日都浜大津4F(おおつ環境フォーラム内)  
TEL: 077-526-7545  
Email: info@minnade-otsu.net  
URL: https://minnade-otsu.net/

## 学生から学生へと受け継がれていく活動と地域との信頼関係

滋賀県立大学 近江楽座 とよさと快蔵プロジェクト

滋賀県立大学のスチューデントファーム「近江楽座」発足時から継続して活動している「とよさと快蔵プロジェクト」。学生約70名で、リノベーション・町のイベントへの参加・空き家改修後に運営しているBarタルガの3部門に分かれて地域活動を行っています。

「とよさと快蔵プロジェクト」では、NPO法人とよさとまちづくり委員会と協力しながら、1年に1軒のペースで豊郷町にある空き家をコミュニティハウス等に改修しています。空き家の紹介や、建築学科の学生も授業で習わないような現場の知識や技術的な指導、様々な手続き等を同委員会のメンバーが行っています。同委員会副理事長の岡村博之さんは「彼ら

がいてくれるからまちづくりができる」と優しい目で見守っておられました。また、

プロジェクト代表の上田健太郎さんは同委員会の人のことを「豊郷のお父さんお母さんのようで、困ったらすぐ相談しています」と話してくださいました。改修中、倉庫前を通り過ぎる人々がお互いに挨拶を交わし、立ち止まって学生と話す姿がとても印象的でした。

活気のある町にしたい、空き家を活用し住み続けられる町にしたいという、学生と地域の人々の共通の思いが、15年の年月をかけ、強いパートナーシップを生み出し、信頼関係が築けているのです。この先もこの関係、活動が継続されることを期待します。



▲物販スペースと依頼のあったステージを製作中



▲今年度改装中の宮川倉庫にて

**DATA** 滋賀県立大学 近江楽座  
とよさと快蔵プロジェクト

代表: 上田 健太郎  
発足: 2004年(現在15年目)  
人数: 約70人  
協力団体: NPO法人とよさとまちづくり委員会  
活動場所: 滋賀県犬上郡豊郷町  
Email: post.toyotoyo@gmail.com  
twitter: https://twitter.com/toyosato\_kaizou



## ビワマスが戻ってくるために 今できること

家棟川では以前、秋になると沢山のビワマスが産卵のため遡上していました。しかし、生活排水や不法投棄などにより川の汚染が進み、ビワマスの数は激減してしまっているのが現状です。

そんな中2015年8月、ビワマスがいた自然あふれる家棟川を再生し、地域の活性化を目指していこうと結成されたのが「家棟川・童子川・中ノ池川にビワマスを戻すプロジェクト」でした。このプロジェクトを成功させるため、まず専門家によって生態回廊再生調査が行われました。



▲ビワマスが遡上できるように  
魚道を設置

次に、行政や地元自治会の協力を得て、魚道や産卵床の造成を進めています。地元企業の参画もあり、人手や資金の支援を受け、持続した活動を可能なものとし、今日まで活動されてきています。プロジェクト成功に向けた歩みは、関係者全てが目標を共有化しそれぞれの役割を果たしながら、少しずつ前進



▲産卵床造成の様子

ています。その結果、今年初めてビワマスが魚道を遡上する姿が確認されました。産卵や稚魚の数も年々増えてきていると、代表の松沢松治さんは本当にうれしそうに話してくださいました。

私たちが生まれる前の家棟川の風景を想像ではなく、実際に見てみたいとワクワクした気持ちがこみ上げてきました。

(おうみネットサポーター：八木 心)

### NPO法人 家棟川流域観光船 「家棟川・童子川・中ノ池川にビワマスを戻すプロジェクト」

- 代表／松沢 松治 ●設立／2007年4月
- 会員／42名(非常勤職員1名、ボランティア42名)
- 連絡先／野洲市菖蒲262-182番地  
TEL/FAX:077-589-5215  
URL: <https://yanamune.jp/information/>



## 子育て支援

### 旬の野菜のスープと交流で 体も心も温かく

結婚や出産を機に他の地域から移り住んでこられたり、核家族化により、子育ての悩みや不安を相談したり助けてくれる人が近くにいないなど、子育て中に孤独を感じているお母さん事情は近江八幡市でも例外ではありません。未就学児親子を対象に、「食・遊び・つながり」の場を通じて、悩みを相談したり情報交換を行ったりすることで、保護者同士や地域の



▲旬の野菜を使ったスープ

の人とのつながりを深められないか。

そんな課題を解決しようと、Mom's fun代表の秋村加代子さんは「みんなの<sup>まるまる</sup>café」を始められました。開催は月に2回、11時30分から15時まで。旬の野菜を使ったスープをボランティアスタッフが作り、みんなでいただきます。「普段は食べない野菜でもスープにしてみんなと一緒だと食べた」といううれしい声も。その後は親子で楽しみながら遊びを提供します。また講師を招いて見守り保育付きの「ママのためのワークショップ」も開催しています。

子育てを楽しいと感じられるよう、遊びや場づくりを子育て世代の保護者と一緒に考え、地域で育てていく、そんな地域の居場所の一つになってきていると実感しました。

(淡海ネットワークセンター：佐藤 弥絵美)



▲みんなでわいわい楽しい様子

### 2018年度「げんさん食育NPO基金」助成団体

## Mam's fun

- 代表／秋村 加代子 ●設立／2017年6月
- 連絡先／Mail: [marumarucafe8@yahoo.co.jp](mailto:marumarucafe8@yahoo.co.jp)  
Instagram: #まむずふあん  
HP: [marumaru.crayonsite.info](http://marumaru.crayonsite.info)  
ブログ: <http://ameblo.jp/momsmfun>

企業 社会貢献する  
「世間よし」



ものづくりの基本は  
「思いやる心」と「丁寧な仕事」



▲美味しさへのこだわりです

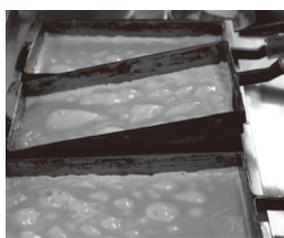
商店街で小さくスタートした店は、様々な方の力添えて、現在、京都・大阪・神戸のデパ地下にも展開されています。

従業員のことを「共働者」と言い、あたかも家族の一員であるかのように関わっておられます。また、目の前のことを大切にしつつ、地域社会の将来をも視点に事業をされています。

大変な思いや、活動をされている方には「直接ボランティア活動はできないが、自分のできる範囲で」との思いで寄付活動をされています。当センターの未来ファンドおうみ「びわ湖の日」基金(環境保全を行う団体への助成事業)にも支援いただいています。



▲元気いっぱいな従業員



▲毎朝手焼きのだし巻き

大正11年に先々代が創業して以来、大津市を拠点に「ふだん使いのお惣菜」づくりをされている豆籐の鳥居静夫さんにお話を伺いました。

「まわりを思いやる心を持ち、今できることをやる」の心で社会に役立つ。日々の仕事に取り組む鳥居さん。誰に対しても「ありがとう」、「ごろうさま」と気持ちよく言っておられる姿が印象的でした。

(淡海ネットワークセンター：荒堀 順子)

有限会社 豆籐

- 代表取締役／鳥居 静夫 ●創業／1922年2月
- 住所／(本店)大津市中央2-4-14
- 連絡先／大津サポートセンター 大津市相模町2-43  
TEL:077-522-3288  
FAX:077-510-3588  
URL:http://mameto.co.jp/



市民 まちづくり

建物の保存だけでなく地域も  
にぎやかになるように

高島のヴォーリズ通りに残るヴォーリズ建築3棟のうち、旧今津郵便局だけが個人所有のため、長年手つかずのまま蔦で覆われていました。この状況を見かねた地域の人々が集まり、建物を守るだけでなく活用し、ヴォーリズ通りをにぎやかにしたいという想いのもと、「ヴォーリズ今津郵便局の会」が結成されました。



▲補修が進み以前の姿を取り戻しつつある外観

プロの力を借りながらも、できるところは会のスタッフとボランティアの協力のもと、手作業で修復していきます。取材当日は窓枠のペンキ塗りがワークショップとして行われていました。また、耐震診断・補強計画の費用は、クラウドファンディングで集められました。

郵便局として使われていた頃の面影が随所に残る建物は、82年前に建てられた古さは感じるものの、少しずつ修復が進み、大きな窓からは暖かい日差しが差し込み、ぬくもりが感じられました。



▲会の皆さんで窓枠の補修作業中

まちがにぎわってほしいという想いのもと、落語会やクリスマス会、マルシェ等も開催されています。同会代表の京都造形芸術

大学名誉教授 大石義一さんは、「いろんな人たちがここで活動しているようにしていきたい。高島高校の生徒が放課後ふらっと楽器の練習にでも気軽に立ち寄ってもらえるような、そんな地域の憩いの場になれば」と願っておられました。

(淡海ネットワークセンター：森本 由実子)

ヴォーリズ今津郵便局の会

- 代表／大石 義一 ●設立／2013年12月20日
- 正会員／50名 ●応援会員／50名
- 連絡先／高島市今津町今津194(旧今津郵便局)  
TEL:0740-22-0981(今津ヴォーリズ資料館)  
開館日:土曜日・日曜日・祝祭日  
URL:http://vipo.takashima-city.jp/

# Changeにチャレンジ! 応援BOX

市民活動を応援する淡海ネットワークセンターの事業をご紹介します。



募集

## ●2019年度 未来ファンドおうみ助成事業の募集

未来ファンドおうみ助成事業の募集が始まります。募集にかかる説明会を開催いたします。多くの方のご参加・ご応募をお待ちしています。

### 【助成事業】

- ①びわこ市民活動応援基金助成
- ②びわ湖の日基金助成
- ③積水化成成品基金助成
- ④笑顔あふれるコープしが基金助成
- ⑤ナカザワNEOフレンドシップ基金助成
- ⑥げんさん食育NPO基金助成
- ⑦湖国文学活動応援むらさき基金助成
- ⑧びわ湖源流の木遣い応援もえぎ基金助成

### 【応募受付期間】

2018年11月20日(火)～2019年1月15日(火)17時必着

☆☆ 説明会 ☆☆☆

大津	12月 1日(土)10:00～12:00	淡海ネットワークセンター
水口	12月 4日(火)13:30～15:30	自主活動センターきずな
米原	12月 5日(水)13:30～15:30	米原公民館
草津	12月 7日(金)17:30～19:30	草津市立まちづくりセンター
今津	12月13日(木)13:30～15:30	今津東コミュニティセンター
大津	12月18日(火)10:00～12:00	淡海ネットワークセンター

※詳しくは、当センターホームページをご覧ください。(担当:荒堀・澤)



講座

## ●NPO決算講座&個別相談会

◇講師:横井 昭次氏(税理士法人 横井会計)

◇日時:2019年1月23日(水)13:30～16:30 滋賀県立県民交流センター205会議室  
2019年1月31日(木)13:30～16:30 米原市米原公民館3A研修室

◇参加費:500円

## ●ふらっとサロン／カードゲーム「2030SDGs」

◇日時:2019年2月15日(金)13:30～16:00 ◇参加費:無料

◇講師:藤田 美保氏(箕面こどもの森学園 校長)

◇会場:淡海ネットワークセンター ふらっとルーム

## 編集後記

取材を通して一番強く印象に残るのは団体の方々「熱い思い」です。おうみネットを通して広く活動を知っていただくお手伝いができればと考えています。

淡海ネットワークセンターのHPは右記QRコードでご覧になれます。おうみネットやブログ等も掲載しておりますので、ぜひご活用ください。

(淡海ネットワークセンター 森本 由美子)



お礼

## ●未来ファンドおうみへ ご寄付ありがとうございます。

この支援金は、滋賀の市民社会を良くしようというがんばっておられる、市民活動団体へ助成して、皆様のお気持ちを伝えながら、おたがいさまがつながり、活きる地域を創るために活用させていただきます。(50音順)

- 株式会社ナカザワ様「ナカザワNEOフレンドシップ基金」
- 元三フード株式会社様「げんさん食育NPO基金」
- 積水化成成品工業株式会社様「積水化成成品基金」
- 有限会社 豆藤様「びわ湖の日基金」
- 匿名「びわ湖源流の木遣い応援もえぎ基金」
- 匿名「湖国文学活動応援むらさき基金」

※2018年11月12日現在

## ●下記の皆様から賛助会員にご入会いただきました。厚く御礼申し上げます。(敬称略、50音順)

〈法人・団体会員〉

滋賀ダイハツ販売株式会社・税理士法人横井会計・特定非営利活動法人かじやの里・琵琶湖汽船株式会社・まるやま歯科クリニック

〈個人会員〉

池口博信・板倉成子・遠藤恵子・岡治利和・奥村清・勝身真理子・川辺恵子・北村裕明・木戸光彰・木村健治・日下部純子・櫻田満・里西薫・澤村雅・菅江克弘・竹村健・辻博子・寺本勉・徳本次夫・中井善寿・中村淳子・中村道也・広実照美・福永忠克・藤井絢子・堀茂樹・村岡孝浩・村西耕爾・森良和・森口行雄・山本昌男・匿名33名



講座

## ●社会的インパクト評価研究会(全6回)の開催日

淡海ネットワークセンターでは今年度「社会的インパクト評価」を活用して組織基盤の強化や団体の「特性」を活かす手法を学んでいます。その内容をより多くの方に知っていただくことを目的に、年6回の研究会を開催しています。

コーディネーターは下記のお二人です。

office musubime 代表 河合 将生氏

ならファンドレイジングクラブ 代表 西村 昌弘氏

●第4回／テーマ「伴走支援について(具体的な進め方)」

日時:2018年12月14日(金)13:30～

●第5回／テーマ「ファンドレイジングに繋げる評価の活用(運営、マネジメントの改善)」

日時:2019年2月21日(木)

●第6回／テーマ「本事業の評価」

日時:2019年3月14日(木)

※皆様のご参加をお待ちしています。



〒520-0801 大津市におの浜1-1-20 ピアザ淡海2階

TEL:077-524-8440 FAX:077-524-8442

http://www.ohmi-net.com

E-mail:office@ohmi-net.com

開館日:

○市民活動ふらっとルーム／火～土曜日(火～全曜日の祝日は休館)

○事務所／火～日曜日

淡海ネットワークセンターは、県内の市民活動、NPOをサポート・ネットワークしています。

■情報交流誌「おうみネット」は登録している県内外の団体・個人のほか、次のところに配布しています。

(50音順)

関西アーバン銀行、京都信用金庫、県内公民館、県内公立施設、県内市民活動支援センター、県内社会福祉協議会、県内市役所・役場、県内図書館、県内中学校・高校・大学、滋賀銀行、滋賀県信用組合、滋賀県庁、生活協同組合コープしが、他

## 公益財団法人 関西アーバン銀行緑と水の基金

滋賀県内において、緑化推進や水環境保全に取り組まれている自治会や住民グループなど地域団体の皆様の活動に対し、助成申請をいただいた事業の書類審査を行い、最大30万円までの助成を行います。  
詳しくは、ホームページをご覧ください。

〒520-0043 滋賀県大津市中央四丁目5番12号 (TEL.077-521-1545) ホームページ <http://gw-kikin.or.jp>



この印刷物は大豆油インキを包含した植物油インキを使用しています。